

# Future

## プロジェクト ~新たな第2クォータープロジェクト~

7/7 (木) に新たなプロジェクト、「micro:bitで学校の困り事解決プロジェクト」をスタートさせました。タイトルの通り、今回のプロジェクトではプログラミングができる教育向けのマイコンボード「micro:bit」を活用し、学校の困り事を調査して4年生がSOLANの最高学年としてその解決を目指すというプロジェクトです。

昨年度の第3クォーターでもmicro:bitを活用しました。その時のプロジェクトは、誰か何かのために役立つ物作りが目的でしたが、子どもたちが作ったものの対象は曖昧でもOKとしていました。それは課題解決よりもmicro:bitの体験を重視したからです。昨年度のプロジェクトを経験した14名の子どもたちはmicro:bitに対して楽しかった印象を持っている子が多いのか、課題を発表した時は嬉しそうにしている子が多かったです。

一方、今の4年生には11名のmicro:bit未経験の子どもたちがいました。課題を発表し、プログラミングをやると知った時には不安な表情を浮かべたり、また課題を聞いた時の不安な思いをまなポートのふりかえりに書いている子もいました。そうなることも予想していたため、プロジェクトの2時間目は、子どもたちをペアにして、「(未経験者の)友だちがmicro:bitを使えるようにしよう」をめあてに、経験した子が未経験の子にiPadとmicro:bitとのペアリングや、iPadのアプリで組んだプログラムをmicro:bitに送る方法を教えてあげる活動をしました。未経験の子たちの不安な思いも一気になくなり、プロジェクトに対して良い印象を持ってスタートすることができました。

7/13 (水) のプロジェクトでは「学校で困り事を見つけるための方法を話し合って考えよう」をめあてに授業を行いました。子どもたちからアンケートとインタビューの2つの方法が提案され、まずはそれをベン図に比較しそれぞれの特徴を分析しました。その後、「学校の困り事解決」という目的を再確認し、困り事を知るためには「やるとりをしながら困っていることを深く知ることが大事」という考えが増え、インタビューをベースに情報収集をしていくことになりました。

7/14 (木) 15 (金) の情報の授業では、「micro:bitのセンサーの特徴を知ろう」をテーマに、micro:bitが持つたくさんのセンサーの特徴を数多く理解することを目標に習得の授業をスタートしました。2日間で最低でも3つのセンサーの習得を目標にし、それぞれが書籍を参考にプログラムを組んでいましたが、中にはセンサーやプログラムの理解であるめあてを深く理解し、例示されたプログラムに対して、「別のセンサーで動くように変えるとどうなるか？」と応用している子もいました。今週の情報の授業でも引き続きやる予定にしており、同時に家に持ち帰ってやることもOKにしているので、ご理解・ご協力をお願いいたします。

## 国語 ~インタビューの方法の習得~

7/15 (金) の国語の授業では、プロジェクトで活用するためのインタビューの知識・スキルの習得を目指す授業をスタートしました。初回であった当日は、3人でグループを組みまずはインタビューを経験することを目的に、話し手・聞き手・記録者に分かれて5分間のインタビューをし合う授業をしました。やってみると5分間続けることが大変なグループもあり、子どもたちは思っていたよりも難しい印象を受けたと思います。聞き手は早口になってしまったこと、記録者はどんどん進んでいくインタビューに追いついていけなかったこと、話し手は具体的に答えることが課題だったと、子どもたちのふりかえりにあがっていました。今週の国語の授業ではインタビューを実施する上でのポイントを理解した上で、更にインタビューの経験を積んでいく予定です。